

ロボ・ソリューションを常設展示 宮脇機械がショールーム開設

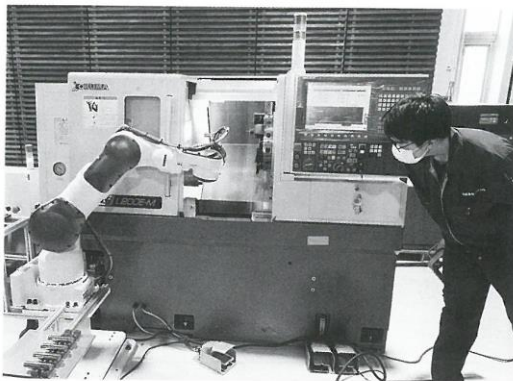
宮脇機械プラント(兵庫県明石市、岡本淳社長)は今年上期に、本社内にショールームを開設する。双腕ロボットや7軸ロボットなどを工作機械やプレス機と組み合わせて常設展示し、具体的なソリューションの例として顧客に提示する。岡本社長は「技術力のアピールは重要。ロボットを使った自動化の案件の売り上げは全体の数%だが、その評価が他の売り上げにつながっている」と話す。

常設のショールームを開設

工作機械や産業用ロボットの販売とシステム設計をする宮脇機械プラントは今年上期に、本社内に常設のショールームを開設すると発表。展示予定のシステムの一部を3月30日、報道陣に公開した。

同社の2017年度の売り上げは約65億円。そのうちロボットを使った自動化の案件は数%に過ぎない。しかし岡本社長は「ショールームの開設を通じて技術力をアピールしたい。システム案件の評価がその他の受注につながっている」と話す。

システム案件を担当するシステ



今後提案に力を入れる7軸ロボット

ム技術部技術課の人員は、現在5人。岡本社長は「食品や医療分野を含め多くの引き合いがあり、現状では対応しきれない。増員したいと常々考えているが、売り手市場の今、理系人材の採用は難しい」と語る。

7軸ロボットをアピール

公開したのは、川崎重工業の双腕ロボット「デュアロ」と6軸ロボット2台、安川電機の7軸ロボットの合計4台。デュアロと7軸ロボット、一部の加工設備は経済産業省と日本ロボット工業会が実施する「ロボット導入促進のためのシステムインテグレーション育成事業」の補助金を受けて購入し、シ

ステムを開発した。ショールーム全体の投資総額は約2500万円で、広さは約500m²。デモ用の工作機械は遊休機を転用し追加することも検討する。

デュアロは日本オートマチックマシンの精密プレス機と合わせてハンドリングのデモ



「突発的なトラブルに対応するためにも技術職の増員が課題」と話す岡本淳社長

動作をする。6軸ロボットはキョウトロボティクスビジョンセンサーと組み合わせ、ランダムに置かれたワークをピックアップするシステムと、ハンドに回転ブラシを取り付けてワーク形状に沿ってバリを取るシステムを展示。

7軸ロボットは、工作機械と3次元測定機の前を往復するレールに乗せ、工作機械のドアの開閉もロボットがする。7軸ロボットは従来の6軸ロボットに比べて狭小スペースでも設置できる。6軸ロボットは工作機械のドアの正面に設置しなければならなかったが、7軸ロボットはドアの横から手を伸ばすイメージで届くので、正面に人が作業できる余地を残せる。「これから多軸ロボットを導入する場合は、7軸ロボットを強く提案したい」と岡本社長は力を込める。

(松川裕希)